

2023年度コーチカンファレンス

レフリーパート

タイトル

「U15/U12の安全に関する競技規則について」

講師：森 健（普及育成委員会小学生部門審判担当・
ハイパフォーマンス部門審判グループ ミニラグビー担当）



**JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION**

前提「子供は小さな大人ではない」

大人とは全く違った心理的、生理的、身体的特徴

←大人の追体験がプラスになるとは限らない。

←大きな子がずっと大きいわけではなく、
小さい子がずっと小さいわけでもない。

←誰もが同じように成長するわけではない。

「子供は小さな大人ではない」

競技規則（ジュニア・ミニ）のねらい
育成年代の子供たちが
「安全に」「楽しく」「いつまでも」ラグビーをプレーできる
環境の実現

ジュニアラグビー、ミニラグビーは
ラグビー「普及育成」の術（すべ）

「普及」「育成」>「強さ」「強化」

指導者として何が
できるか？

レフリーとして
何ができるか？

タックルの高さに関する試験的ガイドライン 導入

**COMMUNITY GAME:
LEGAL TACKLE HEIGHT PROPOSAL**

THE RISK OF CONCUSSION IS 4.2 TIMES HIGHER WHEN THE TACKLER'S HEAD IS ABOVE THE BALL CARRIER'S STERNUM IN THE TACKLE*

BELOW THE STERNUM

- TACKLE THE BELLY
- BELOW THE BALL
- TARGET THE TORSO

*[SOURCE: DATA FROM 878 HIAS, ONGOING WORLD RUGBY RESEARCH STUDIES, AS IN TUCKER ET AL 2017]

胸骨の位置(赤塗り部分)

**COMMUNITY GAME:
LEGAL TACKLE HEIGHT PROPOSAL**

THE RISK OF CONCUSSION IS 4.2 TIMES HIGHER WHEN THE TACKLER'S HEAD IS ABOVE THE BALL CARRIER'S STERNUM IN THE TACKLE*

HIGHEST RISK ZONE
HEAD-ON-HEAD AND HEAD-ON-SHOULDER

LOWER RISK ZONE
TACKLER HEAD TO BALL CARRIER TORSO\UPPER BODY

HEAD-TO-HIP AND HEAD-TO-UPPER LEG ARE LOW RISK

MEDIUM RISK ZONE
HEAD-ON-KNEE HIGHER RISK WITH MEDIUM ZONE

*[SOURCE: DATA FROM 878 HIAS, ONGOING WORLD RUGBY RESEARCH STUDIES, AS IN TUCKER ET AL 2017]



U10 (ミニラグビー) では一部例外あり (後述)

タックラーが静止して相手を受け止めるようなケース

[全てのカテゴリー]

防御側が静止した状態でボールキャリアーを受け止めるようなケースは、危険度が無い場合はプレーオンとする。

ミニラグビーでのチェックポイント

- ①タックラー自身が前進していない
- ②ボールキャリアーを受け止める（激しい衝突がない）
- ③頭部、頸部への接触がない

ミニラグビー（U10）でのタックルについての特例

[U10での特例]

発達段階を考慮して、

「頭部、頸部への接触がない」かつ「レフリーが危険でないと判断した場合」は、

- ・ ボールキャリアの胸部をつかむ
- ・ タックラーに抱きつく、ぶら下がる

上のようなタックルがあってもプレーを継続する場合がある。

いわゆる「逆ヘッドタックル」

いかなる状況でも反則



日頃から
ボールキャリア、タックラーともに
正しいスキルを身につけさせる。

レフリーは、けがにつながりかねない
行為には毅然と対応する。

ボールキャリアの行為

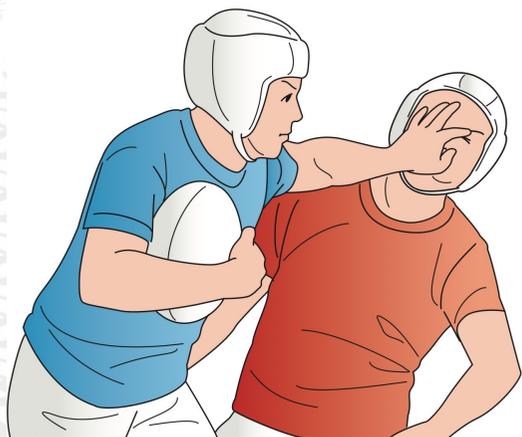
自他に危険が及ばないように、正しく、安全なスキルを身につけさせる。

〔禁止事項の例〕 全てPK以上

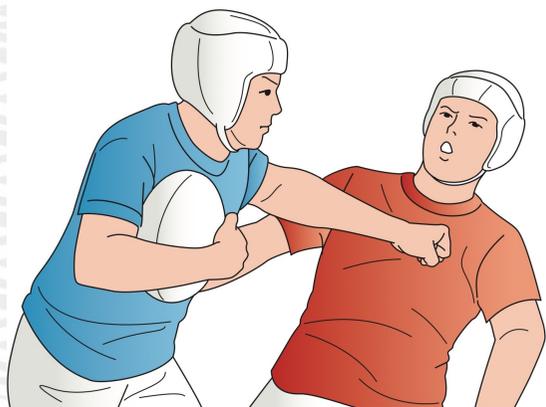
- ・ タックラーがタックル出来ないように頭を下げる
←ローヘッド
- ・ 膝や肘を前に出して相手に当たる ←危険な行為
- ・ あえて相手に当たって逆ヘッドタックルを誘発する
←危険な行為

ボールキャリアの行為

以下は禁止



- ・腕を横に振って相手を払いのける
- ・頸部、顔面、頭部へのハンドオフ
- ・げんこつ、手刀、ひじうち



- ・過度の力が加わったハンドオフ

(例) 相手のけがにつながる恐れがある

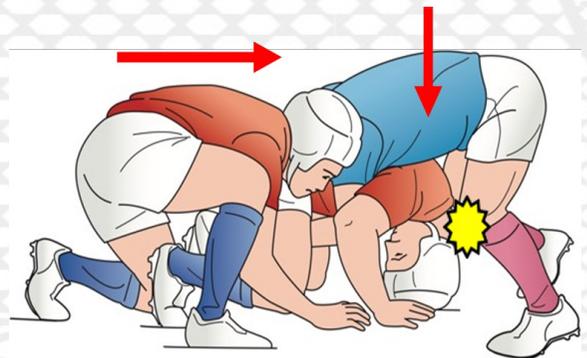
相手が受け身がとれない

←レフリーが判断

ボールキャリアの行為



対応の遅れは
大きな事故につながる



スクイーズボールの姿勢

- ・日頃の練習時から「しない」「させない」
- ・レフリースは「見逃さない」

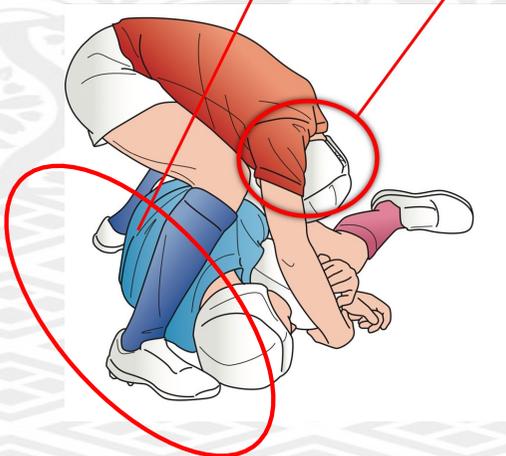
- 自分がけがをしない・相手をけがさせないための指導
(指導者)
- 毅然とした対処
(レフリース)

頭を肩や腰より低く(ローヘッド)プレーをする行為

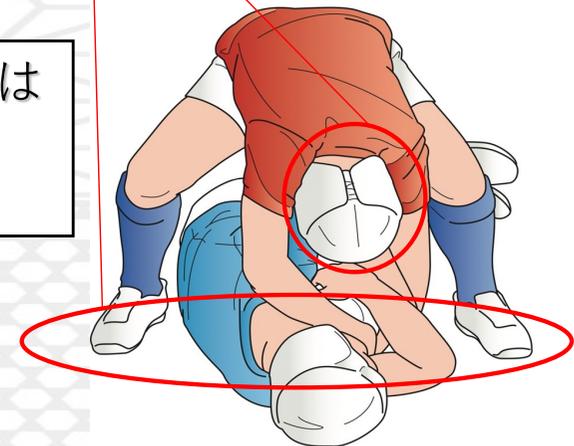
全てのプレーや局面において禁止

下図の姿勢を取ること自体は問題ないが※
頭を下げ続けているのは危険な行為としてPK。

「足をそろえて頭を下げた姿勢」



「地面に横たわったプレーヤーを
またいで頭を下げた姿勢」



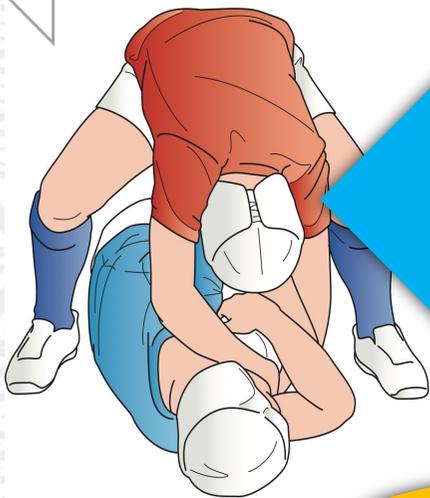
ボールを拾おうとするプレーヤーは
①しっかりとボールをつかむ
②ボールを持ち上げる動作を行う

※ミニラグビーではこの姿勢になったらPK

ジャッカラーをスweepする行為について

自立できない体勢でのボール争奪を認めない

ボールキャリアの進行方向



ジャッカラーを
スweepする
プレイヤー

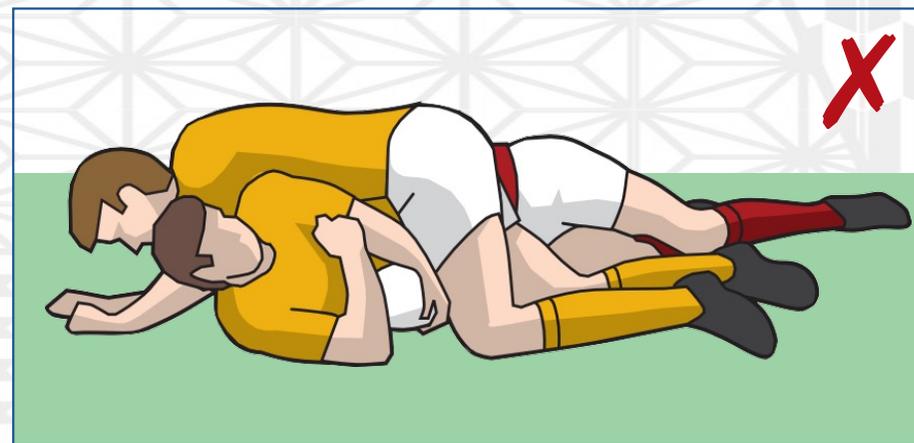
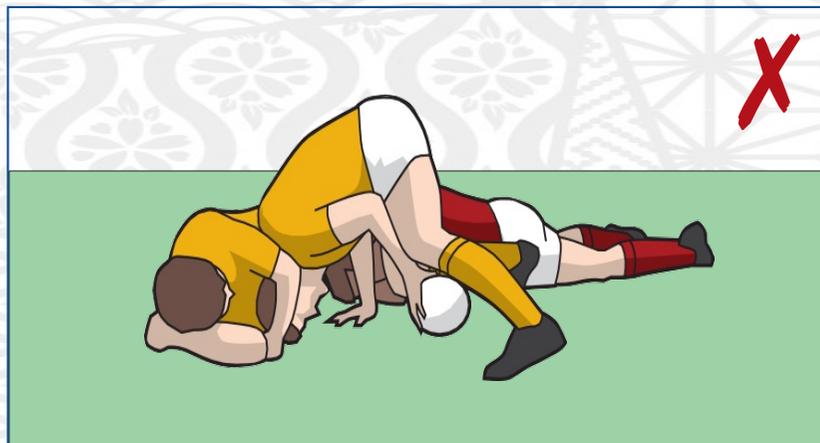
※ミニラグビーでのチェックポイント

- ①頭が腰より高い姿勢・顔が上がっている
- ②**胴体**にバインドし続ける
- ③最後までレッグドライブ

×相手を突き飛ばす・突き倒す

自立できない体勢でのボール争奪を認めない

ボール争奪の局面では「自立する」「倒れない」指導を



プレーヤーが安心してプレーできる環境作り

1 トライした直後のプレーヤーへのチャージ

〔手順〕 ①チャージしたプレーヤーを注意（以上）

②ハーフウェーライン上のペナルティキックで再開

2 担ぎ上げられたボールキャリアが背中や頭を地面に打ち付けられる。
体格差が大きい場合に生じやすい。

プレーヤーが安心してプレーできる環境作り

3 最新かつ正しい知識の習得と、緊急時の対応の準備

- ・ 頭部打撲
 - × 「こぶができれば安心」
 - × 「寝せていれば直る」
 - × 「子供は脳しんとうにならない」
- ・ 熱中症

練習や試合の時の対応体制は？
判断の規準・基準は？

子供の「大丈夫」を判断、対処の根拠にしない。
←大人が判断する。

☆日頃、子供の側にいられるのはコーチです☆

☆ゲーム中、プレーヤーに一番近い位置にいるのはレフリーです☆

プレーヤーが安心してプレーできる環境作り

ミニラグビー競技規則

第9条 コーチ

- ・子どもの自主性、判断力養成の観点から、人格を尊重した言葉で指導を行う。
- ・レフリーの判定に異議を唱えない。

レフリーによる注意→退場を命じる→主催者への報告

チームの問題ではなく、ラグビー界全体の問題

日本ラグビーフットボール協会

[「インティグリティ追究／相談窓口」へ](#)

「子供は小さな大人ではない」

大人のラグビーと普及育成年代のラグビーを混同しない

「普及」「育成」>「強さ」「強化」

指導者として何が
できるか？

レフリーとして
何ができるか？